

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

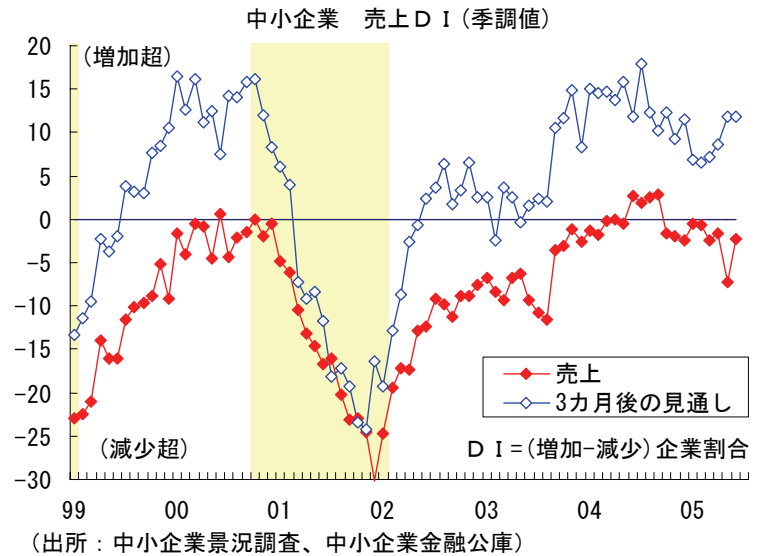
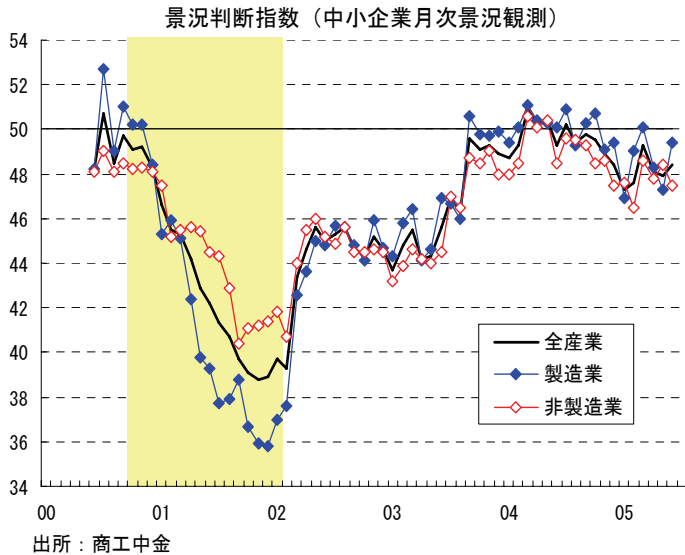
指標名：中小企業の業況（6月調査）

発表日：6月30日（木）

～ 中小企業の業況感は、年明け以降一進一退 ～

(No. J - 52)

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 新家 義貴 (03-5221-4528)



## ○ 中小企業の業況感は、年明け以降一進一退

6月29日に中小企業金融公庫から「中小企業景況調査」が、30日に商工中金から「中小企業月次景況観測」がそれぞれ公表された。あまり馴染みのない統計とは思われるが、明日公表の日銀短観を占う意味において簡単に解説する。

中小企業月次景況観測の6月の景況判断指数(1000社調査)は48.4(5月47.9)と前月から0.5ポイントの上昇となった。内訳では、製造業は49.4(前月47.3)と2.1ポイント上昇、非製造業は47.5(前月48.4)と0.9ポイントの低下となった。また、中小企業景況調査の6月の売上D Iは▲2.3(5月▲7.3)と前月から5ポイントの改善となった。このように、両調査とも6月の業況は前月から持ち直している。

もっとも、3ヵ月前である3月調査との比較をすれば、中小企業月次景況観測は、全産業で▲0.9P、製造業が▲0.7P、非製造業が▲1.1Pと、それぞれ小幅悪化している。また、中小企業景況調査の売上D Iは3月調査対比で+0.1Pの改善となっている。どちらも、ほぼ横這い圏内の動きとあって良いだろう。トレンドとしてみれば、「昨年未まで悪化が続いていたが、年明け以降は悪化に歯止めがかかりつつあり、足元では一進一退の推移となっている」といった評価になるだろう。この二つの統計からみる限りでは、明日公表の日銀短観が大幅に改善もしくは大幅に悪化するというイメージは描けない。改善、悪化のいずれにしても、小幅な動きが予想され、横這い圏内との判断がなされる可能性が示唆されている。

## ○ 売上見通しが改善

一つ前向きな点を挙げると、中小企業景況調査の「今後3ヵ月間の売上見通し」がこのところやや持ち直していることは、数少ない先行きの改善シグナルとして注目される。こうした売上見通しの改善は、単なる期待なのか、あるいはなんらかの裏付けのあるものなのかは、明日の日銀短観の結果も合わせて判断したい。